

北海道高等学校秋季テニス大会実施に向けて、留意事項(2020.10.5)

新型コロナウイルス感染予防対策(STOP 感染拡大 COVID-19 4訂版)

北海道高等学校体育連盟テニス専門部

大会参加する各学校の顧問の先生、監督、参加生徒(出場生徒・応援生徒)は、感染予防に関して十分に確認した上で参加すること。協力を得られない参加者には、他の参加者の安全を確保する観点から大会への参加取消や途中退場を求めることがある。

新型コロナウイルス感染を防ぐには、日ごろの取り組みが大切です。

基本は「手洗い」「うがい」「マスク」で予防すること。

◆大会前

- ① 公式練習前に、利用当日のチェック表を本部に提出する。
- ② 大会2週間前からの検温チェックを記録表に残しておく。引率責任者の先生は部員全員の検温チェック一覧表を大会初日(開会式前受付)へ提出する。
- ③ 【選手が通う学校で感染者が発生した場合】学校の措置が最優先であることを基本に、休校になった場合は原則その学校は大会を辞退する。休校にならなかった場合でも、選手が感染しているなど、その状況によって判断し、辞退になることもあり得る。
- ④ 【チーム内で感染者が発生した場合】
 - ㊦ 保健所に相談するとともに北海道高体連事務局、北海道高体連テニス専門部、各支部テニス専門部に報告する。下記以外にも様々な事象があることから指導者のみで判断せず、関係各所にアドバイスを受け賢明な判断をする。
 - ㊧ 指導者及び選手が感染した場合、その本人を活動停止(完全に治癒するまでの期間)とする。
 - ㊨ 指導者及び選手が濃厚接触者として指定された場合、PCR検査か健康観察期間が終わるまでの期間、活動を停止する。
 - ㊩ 指導者及び選手の同居人が濃厚接触者でも、本人が濃厚接触者として指定されず、しかも症状がない場合は活動可能とする。
 - ㊪ 感染者等が発生した場合、保健所等の追跡調査に協力する。必要に応じて、北海道高体連テニス専門部、各支部テニス専門部に報告する。
 - ㊫ 感染者が発生した場合は、北海道高体連等の関係団体等と協議の上、チームの活動停止、大会出場停止などの判断を下すことがある。
- ⑤ 誰が、いつ、どこで感染してもおかしくないという共通認識を持って、偏見などが起こらないように対応して下さい。感染者や濃厚接触者が出ることで、プライバシーの問題やチーム内での孤立が往々に起こる可能性がありますので、十分に理解を得られてから活動をするようにして下さい。

◆公式練習時

- ① 発熱や咳など風邪の症状や体調不良がある場合は、会場への立ち入りを禁止する。
- ② 会場内では、コートでプレイするとき以外は、大会会場内ではマスクを着用する。また、各個人がソーシャルディスタンスを確保する。
- ③ 会場内では、必要に応じてこまめに手洗いを行う。チームは手洗いのハンドソープを用意する。また、消毒用アルコールも用意する。
(大会本部でも用意しますが、ハンドソープは特に不足が心配されます。)
- ④ 手洗い後は、なるべく使い捨てのペーパータオルを使う。タオル・ハンカチの場合は、個々のものを使用し、共有はしない。
- ⑤ コート内のベンチなど、多くの者が手にするものに対しては、練習前後に必ず消毒をする。また、共有で使用する道具は極力少なくし、共有する場合は必ず消毒する。
- ⑥ 密閉空間でのミーティングは行わない。食事は開放空間で行い、近接や向き合っ
ての食事は避ける。
- ⑦ アップや練習や片付けなど多くの場面で密集状態にならないように十分注意をする。
- ⑧ 唾や痰を吐くことは行わない。
- ⑨ 練習後は、速やかに手洗い、うがいを行う。
- ⑩ 水分補給時は自分で用意した飲み物以外絶対に飲まない。コップ等の共用は厳禁。

◆移動時

- ① 公共の交通機関での移動は、換気や密集しないよう十分に気を付ける。
- ② 移動の際は最小限の人数とする。
- ③ 席に余裕がある場合は、出来るだけ間隔を空けて座る。
- ④ マスクを着用する。
- ⑤ 必要最低限の会話以外を行わない。

◆宿舎

- ① 日常生活同様、宿舎でも手洗い、うがい、消毒（家庭で行っている箇所は勿論）、換気を徹底する。
- ② 頻繁な部屋の出入りを控え、部屋及び施設内においてもマスクを着用する。
- ③ 部屋に多数が集まり、談笑するなどの行為を禁止する。
- ④ なるべく個室を利用する。大広間等で就寝する場合は、間隔を広げること。
- ⑤ 食堂内においても他の利用者との接触を極力避ける時間帯及び場所をセッティングする。極力、一方方向を向いて食事をとる。
- ⑥ ビュッフェスタイルではなく、なるべく個別の食事とするよう宿泊先と調整する。
- ⑦ 食事前には、必ず手洗いを行い、食事中はスマホなどの他の物を一切触らない。
- ⑧ 大浴場を避け、個室の風呂を利用する。

◆試合会場

- ① 大会期間中、引率責任者の先生は、引率部員全員分の「健康状態・チェックリスト」を毎朝専門部へ提出すること。
- ② 発熱・咳・倦怠感・咽頭痛・嗅覚味覚の異常がみられる生徒や大会関係者は会場内への立ち入りを禁止する。
- ③ 無観客試合です。
- ④ 大会会場内に入入りする者は、マスクを着用する。（熱中症の恐れがある場合は、個々の判断でマスクの着脱を認める。ただし、この場合は個々の間隔を2m以上確保する。）
- ⑤ 会場内では、必要に応じてこまめに手洗いを行う。チームは手洗いのハンドソープを用意する。また、消毒用アルコールも用意する。

◆本部

- ① 入室する者は必ずマスクを着用する。（熱中症の恐れがある場合は、個々の判断でマスクの着脱を認める。ただし、この場合は個々の間隔を2m以上確保する。）
- ② こまめに換気を行い、外気を取り入れる。
- ③ ドアノブ、テーブル、椅子等の除菌を行う。
- ④ 「密閉」（＝換気の悪い閉鎖空間）「密集」（＝人が密集）「密接」（＝近距離での会話）の状況を作らない。

◆選手待機場所

- ① 待機場所は、「密閉」（＝換気の悪い閉鎖空間）「密集」（＝人が密集）「密接」（＝近距離での会話）の状況を作らない、なるべく屋外とする。
- ② 食事等は、開放空間で行う。近接や向かい合っでの食事は避ける。
- ③ **雨天時は、帯広の森体育館を待機場所とする。**「密閉」（＝換気の悪い閉鎖空間）「密集」（＝人が密集）「密接」（＝近距離での会話）の状況を作らない。

◆ベンチ及びコート

- ① ベンチの椅子等は試合前後に各チームで除菌する。
- ② 開始時の挨拶、オーダー交換、終了時の挨拶時は、全員マスクを着用し、大声をあげての挨拶を控え、握手はしない。
- ③ 試合終了時は、選手間の握手、審判との握手は行わず、しっかりと礼を行う。
- ④ 円陣を組むなど密集状況を作らない。
- ⑤ ダブルスで、インプレーでない時間の最小距離はラケットタッチできる程度までとし、会話は必要最小限の内容を短時間で済ませること。
- ⑥ コート、ベンチでの咳やくしゃみは、腕等で口や鼻を覆う。
- ⑦ ハイタッチ等接触することを禁止する。
- ⑧ タオルなどは個人のものを使用し、絶対に共用をしない。

- ⑨ 水分補給時は自分で用意した飲み物以外は絶対に飲まない。
- ⑩ 試合終了後は、選手、審判は手洗い、うがい、水分補給を行う。

◆控え部員

- ① 発熱、咳、倦怠感、咽頭痛、嗅覚や味覚の異常がみられる場合には、会場への入場をしない。
※自分を守るだけでなく、多くの仲間、選手を守ることを徹底。
- ② 応援選手を含めマスクを着用する。マスクの持ち合わせがない人は、応援を辞退していただく。(熱中症の恐れがある場合は、個々の判断でマスクの着脱を認める。ただし、この場合は個々の間隔を2m以上確保する。)
- ③ 応援選手は、極力前後左右2m(最低1m)以上間隔を空けて座る。
- ④ 声を出しての応援を禁止する。
- ⑤ 拍手による応援は認める。
- ⑥ ゴミはすべて各自が持ち帰る。
- ⑦ 控え部員等の取りまとめは、引率責任者が行う。
- ⑧ 大会役員は、上記注意事項が守られているか定期的に会場内を巡回する。

2020.6.10 初版

2020.7.1 第2版

2020.9.25 第3版

2020.10.5 第4版